

デーヴォ ガイド



2022.2.28-3.6

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

17:11 そのころイエスはエルサレムに上る途中、サマリヤとガリラヤの境を通られた。

17:12 ある村にはいると、十人のツアラアトに冒された人々がイエスに出会った。彼らは遠く離れた所に立って、

17:13 声を張り上げて、「イエスさま、先生。どうぞあわれんでください。」と言った。

17:14 イエスはこれを見て、言われた。「行きなさい。そして自分を祭司に見せなさい。」彼らは行く途中でいやされた。

17:15 そのうちのひとりとは、自分のいやされたことがわかると、大声で神をほめたたえながら引き返して来て、

17:16 イエスの足もとにひれ伏して感謝した。彼はサマリヤ人であった。

17:17 そこでイエスは言われた。「十人いやされたのではないか。九人はどこにいるのか。17:18 神をあがめるために戻って来た者は、この外国人のほかには、だれもいないのか。」

17:19 それからその人に言われた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰が、あなたを直したのです。」

17:20 さて、神の国はいつ来るのか、とパリサイ人たちに尋ねられたとき、イエスは答えて言われた。「神の国は、人の目で認められるようにして来るものではありません。

17:21 『そら、ここにある。』とか、『あそこにある。』とか言えるようなものではありません。いいですか。神の国は、あなたがたのただ中にあるのです。」

だけでした。残りの9人にとっては、神様などはどうでもよいのです。ただ自分の願いがかなえばよかっただけでした。

私たちもそのような心でないか考えてみる必要があります。祈りますが、それが聞かれると祈ったことさえ忘れてしまう…。そんなことはないでしょうか。

神様が祈りに応えてくださるのは、私たちとの愛の交わりためです。主が生きておられ、私たちのような罪人の祈りに聞いてくださる主の愛を感じたなら、その主に心からの感謝をささげましょう。時にはささげものや奉仕によって感謝を表わしましょう。

また神の国についてイエス様は、その思い違いを正されます。当時の人々は神の国とは、ローマ帝国に対抗できる国家とっていました。また現代のクリスチャンなら、やがて来る天国と思う人もあるでしょう。

しかし神の国の本質は神の支配です。心が聖霊に満たされるならそれは神の国です。交わりが主の愛によるならそれも神の国です。その結果国家が祝されれば、旧約のイスラエルが繁栄した時期のようになります。また神の支配の永遠・究極のものがあるべき天の国です。

神の国を求めましょう。まずは自分自身の心が神様に支配されることを望みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶ 1日 火曜

ルカ

17:22 イエスは弟子たちに言われた。「人の子の日は一日でも見たいと願っても、見られない時が来ます。

17:23 人々が『こちらだ。』とか、『あちらだ。』とか言っても行ってはなりません。あとを追いかけてはなりません。

17:24 いなずまが、ひらめいて、天の端から天の端へと輝くように、人の子は、人の子の日には、ちょうどそのようであるからです。

17:25 しかし、人の子はまず、多くの苦しみを受け、この時代に捨てられなければなりません。

17:26 人の子の日に起こることは、ちょうど、ノアの日を起こったことと同様です。

17:27 ノアが箱舟にはいるその日まで、人々は、食べたり、飲んだり、めとったり、とついでりしていたが、洪水が来て、すべての人を滅ぼしてしまいました。

17:28 また、ロトの時代にあったことと同様です。人々は食べたり、飲んだり、売ったり、買ったり、植えたり、建てたりしていたが、

17:29 ロトがソドムから出て行くと、その日に、火と硫黄が天から降って、すべての人を滅ぼしてしまいました。

17:30 人の子の現われる日にも、全くそのとおりです。

17:31 その日には、屋上にいる者は家に家財があっても、取り出しに降りてはいけません。同じように、畑にいる者も家に帰ってはいけません。

17:32 ロトの妻を思い出さない。

17:33 自分のいのちを救おうと努める者はそれを失い、それを失う者はいのちを保ちます。



17:34 あなたがたに言いますが、その夜、同じ寝台で男がふたり寝ていると、ひとりを取られ、他のひとは残されます。

17:35 女がふたりいっしょに臼をひいていると、ひとりを取られ、他のひとは残されます。」

17:36 [本節欠如]

17:37 弟子たちは答えて言った。「主よ。どこですか。」主は言われた。「死体のある所、そこに、はげたかも集まります。」

神の国が最終的にもたらされるときは、この世の終りがともないます。世界はいつまでも続きませんし、この世界、地球の環境も永遠ではありません。それはやがて…ではなく、近い将来のようです。それがすぐに来ようであっても大丈夫であるように、私たちは備える必要があるのです。

ロトの妻はこの世のものに心が執着していたために、救われることはありませんでした。私たちが家財などに執着しないように、何よりも永遠のいのちの大切さを忘れないようにしましょう。

「死体のあるところ」とはイエス様の十字架の死を意味するものと思われます。はげたかが集まるように、私たちは十字架を慕ってイエス様のもとへ行けば良いのです。十字架の救いも、また世の終わりも、共に存在します。ですから私たちにあって世の終わりは、永遠の御国への入り口なのです。

希望を持ちつつ、終りの日のための備えをしましょう。

愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、



➤ 2日 水曜

ルカ



18:1 いつでも祈るべきであり、失望してはならないことを教えるために、イエスは彼らにたとえを話された。

18:2 「ある町に、神を恐れず、人を人とも思わない裁判官がいた。

18:3 その町に、ひとりのやもめがいたが、彼のところにやって来ては、『私の相手をさばいて、私を守ってください。』とっていた。

18:4 彼は、しばらくは取り合わないでいたが、後には心ひそかに『私は神を恐れず人を人とも思わないが、

18:5 どうも、このやもめは、うるさくてしかたがないから、この女のために裁判をしてやることにしよう。でないと、ひっきりなしにやって来てうるさくてしかたがない。』と言った。」

18:6 主は言われた。「不正な裁判官の言っていることを聞きなさい。

18:7 まして神は、夜昼神を呼び求めている選民のためにさばきをつけなくて、いつまでもそのことを放っておかれることがあるでしょうか。

18:8 あなたがたに言いますが、神は、すみやかに彼らのために正しいさばきをしてください。しかし、人の子が来たとき、はたして地上に信仰が見られるでしょうか。」

この裁判官よりも神様ははるかに慈悲深い方です。ですから神様が「夜昼神を呼び求めている」人に応えないはずがありません。問題は私たちが祈りをすぐにやめてしまうことです。「しばらくはとりあわない」かのように、神様は私たちの信仰を見るために、または忍耐を訓練するために、すぐには答えられない場合がありますが、そのようなときにすぐに

不信仰に陥ってしまって、祈りをやめるのです。

神様がすぐには答えないのには、深いお考えがあります。そのことを信頼して、あくまでも神様を頼って、呼び求めましょう。時には祈りの目的が変わってくるかもしれませんが、それも聖霊様の導きであるなら、感謝しつつ確信を深め、呼び求め続けましょう。

愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、



3日 木曜

ルカ



18:9 自分を義人だと自任し、他の人々を見下している者たちに対しては、イエスはこのようなたとえを話された。

18:10 「ふたりの人が、祈るために宮に上った。ひとりパリサイ人で、もうひとりは取税人であった。

18:11 パリサイ人は、立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私はほかの人々のようにゆるする者、不正な者、姦淫する者ではなく、ことにこの取税人のようではないことを、感謝します。

18:12 私は週に二度断食し、自分の受けるものはみな、その十分の一をささげております。』

18:13 ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようともせず、自分の胸をたたいて言った。『神さま。こんな罪人の私をあわれんでください。』

18:14 あなたがたに言うが、この人が、義と認められて家に帰りました。パリサイ人ではありません。なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。」

18:15 イエスにさわっていただこうとして、人々がその幼子たちを、みもとに連れて来た。ところが、弟子たちがそれを見てしかった。

18:16 しかしイエスは、幼子たちを呼び寄せて、こう言われた。「子どもたちをわたしのところに来させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。

18:17 まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、はいることはできません。」

ルカ。』

神様の目から見て、誰が義人であるかは明らかです。自分の行いの立派さを主張することは、どんなときも愚かであると言わざるを得ないでしょう。私たちは気をつけましょう…というよりも、価値観を根本的に変える必要があるのかもかもしれません。

「子どものように…」というも謙遜に関係しています。素直に自分の弱いところ、未熟なところを認める必要があります。ですから教会とは、弱さや足りなさや失敗を素直に認める人々の集まりであり、そのような人が「義と認められて家に帰る」ようであればならないのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4日 金曜

ルカ

18:18 またある役人が、イエスに質問して言った。「尊い先生。私は何をしたら、永遠のいのちを自分のものとして受けることができるでしょうか。」

18:19 イエスは彼に言われた。「なぜ、わたしを『尊い』と言うのですか。尊い方は、神おひとりのほかにほだれもありません。」

18:20 戒めはあなたもよく知っているはずで、盗んではならない。殺してはならない。偽証を立ててはならない。父と母を敬え。』」

18:21 すると彼は言った。「そのようなことはみな、小さい時から守っております。」

18:22 イエスはこれを聞いて、その人に言われた。「あなたには、まだ一つだけ欠けたものがあります。あなたの持ち物を全部売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになり、そのうえで、わたしについて来なさい。」

18:23 すると彼は、これを聞いて、非常に悲しんだ。たいへんな金持ちだったからである。

18:24 イエスは彼を見てこう言われた。「裕福な者が神の国にはいることは、何とむずかしいことでしょう。」

18:25 金持ちが神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。」

18:26 これを聞いた人々が言った。「それでは、だれが救われることができるでしょう。」

18:27 イエスは言われた。「人にはできないことが、神にはできるのです。」

18:28 すると、ペテロが言った。「ご覧ください。私たちは自分の家を捨てて従ってまい



りました。」

18:29 イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子どもを捨てた者で、だれひとりとして、

18:30 この世にあってその幾倍かを受けない者はなく、後の世で永遠のいのちを受けない者はありません。」

「裕福な者が神の国に入る」ことのむずかしさを、イエス様は言われます。しかし、どんなにむずかしくとも「神にはできる」と宣言なさいます。救いが一方的に神様のみわざであることを考えるなら、どんなにむずかしい人でも神様にはできると考えるべきです。

また貧しい人は救われることが簡単かと言うと、人は罪ゆえに救いには絶望的なのですから、簡単というわけではありません。金持ちも貧しい人も「神の国にはいること」はむずかしいのです。

ここで分ることは、「そのようなことはみな、小さい時から守っております。」という人のむずかしさであり、青年は金持ちであるがゆえの欠けが、その生き方にあったのでした。

自分の立場や境遇やまたは権利などから、自分に与えられている使命があるのに果たせていないことはないでしょうか。また、他の人もしていないから…と、自分の使命に気づいていないことはないでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 土曜

ルカ



18:31 さてイエスは、十二弟子をそばに呼んで、彼らに話された。「さあ、これから、わたしたちはエルサレムに向かって行きます。人の子について預言者たちが書いているすべてのことが実現されるのです。

18:32 人の子は異邦人に引き渡され、そして彼らにあざけられ、はずかしめられ、つばきをかけられます。

18:33 彼らは人の子をむちで打ってから殺します。しかし、人の子は三日目によみがえります。」

18:34 しかし弟子たちには、これらのことが何一つわからなかった。彼らには、このことばは隠されていて、話された事が理解できなかった。

18:35 イエスがエリコに近づかれたころ、ある盲人が、道ばたにすわり、物ごいをしていた。

18:36 群衆が通って行くのを耳にして、これはいったい何事ですか、と尋ねた。

18:37 ナザレのイエスがお通りになるのだ、と知らせると、

18:38 彼は大声で、「ダビデの子のイエスさま。私をあわれんでください。」と言った。

18:39 彼を黙らせようとして、先頭にいた人々がたしなめたが、盲人は、ますます「ダビデの子よ。私をあわれんでください。」と叫び立てた。

18:40 イエスは立ち止まって、彼をそばに連れて来るように言いつけられた。

18:41 彼が近寄って来たので、「わたしに何をしてほしいのか。」と尋ねられると、彼は、「主よ。目が見えるようになることです。」

と言った。

18:42 イエスが彼に、「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを直したのです。」と言われると、

18:43 彼はたちどころに目が見えるようになり、神をあがめながらイエスについて行った。これを見て民はみな神を賛美した。

19:1 それからイエスは、エリコにはいって、町をお通りになった。

19:2 ここには、ザアカイという人がいたが、彼は取税人のかしらで、金持ちであった。

19:3 彼は、イエスがどんな方か見ようとしたが、背が低かったので、群衆のために見る事ができなかった。

19:4 それで、イエスを見るために、前方に走り出て、いちじく桑の木に登った。ちょうどイエスがそこを通り過ぎようとしておられたからである。

19:5 イエスは、ちょうどそこに来られて、上を見上げて彼に言われた。「ザアカイ。急いで降りて来なさい。きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから。」

19:6 ザアカイは、急いで降りて来て、そして大喜びでイエスを迎えた。

19:7 これを見て、みなは、「あの方は罪人のところにやって客となられた。」と言ってつぶやいた。

19:8 ところがザアカイは立って、主に言った。「主よ。ご覧ください。私の財産の半分を貧しい人たちに施します。また、だれからでも、私がだまし取った物は、四倍にして返します。」

19:9 イエスは、彼に言われた。「きょう、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのでありますから。

19:10 人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」

弟子たちはまだ信仰の目が開けていませんでしたが、この目の不自由な人は、見えるようになり、「イエスについて行った。」のです。初めは自分の願いでしたが、主の恵に感じて、喜んで自分をささげました。ここにクリスチャンの生き方が始まります。

願いがかなって、あとは自分の好きにやるようでは、イエス様を愛しているとは言えません。また次の願いごとはどうなるかは分かりません。恵に感謝しつつ、「神をあがめながら」、イエス様に「ついて行」きましょう。

ザアカイにとってはお金が一番大切でした。人生を守る保証が欲しかったのでしょう。しかしそれゆえ、彼は不正な取税人となり、金持ちではありましたが孤独でした。

イエス様はそのような彼の心にまでも寄り添ってくださる方でした。「あなたの家に泊まることにしてあるから」と、主は求める者と親しく交わってくださるのです。

イエス様と交わりましょう。そうすればその愛の御人格で、私たちは変わります。ザアカイも過去を悔い改めて、全く変わりました。私たちはもっとイエス様との人格的な交わりが必要かもしれません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

6日 日曜

ルカ

19:11 人々がこれらのことに耳を傾けているとき、イエスは、続けて一つのたとえを話された。それは、イエスがエルサレムに近づいておられ、そのため人々は神の国がすぐにも現われるように思っていたからである。

19:12 それで、イエスはこう言われた。「ある身分の高い人が、遠い国に行った。王位を受けて帰るためであった。

19:13 彼は自分の十人のしもべを呼んで、十ミナを与え、彼らに言った。『私が帰るまで、これで商売なさい。』

19:14 しかし、その国民たちは、彼を憎んでいたの、あとから使いをやり、『この人に、私たちの王にはなってもらいたくありません。』と言った。

19:15 さて、彼が王位を受けて帰って来たとき、金を与えておいたしもべたちがどんな商売をしたかを知ろうと思ひ、彼ら呼び出すように言いつけた。

19:16 さて、最初の者が現われて言った。『ご主人さま。あなたの一ミナで、十ミナをもうけました。』

19:17 主人は彼に言った。『よくやった。良いしもべだ。あなたはほんの小さな事に忠実だったから、十の町を支配する者になりなさい。』

19:18 二番目の者が来て言った。『ご主人さま。あなたの一ミナで、五ミナをもうけました。』

19:19 主人はこの者にも言った。『あなたも五つの町を治めなさい。』

19:20 もうひとりが来て言った。『ご主人さま。さあ、ここにあなたの一ミナがございま



す。私はふろしきに包んでしまっておきました。

19:21 あなたは計算の細かい、きびしい方ですから、恐ろしゅうございました。あなたはお預けにならなかったものをも取り立て、お蒔きにならなかったものをも刈り取る方ですから。』

19:22 主人はそのしもべに言った。『悪いしもべだ。私はあなたのことばによって、あなたをさばこう。あなたは、私が預けなかったものを取り立て、蒔かなかつたものを刈り取るきびしい人間だと知っていた、というのか。』

19:23 だったら、なぜ私の金を銀行に預けておかなかったのか。そうすれば私は帰って来たときに、それを利息といっしょに受け取れたはずだ。』

19:24 そして、そばに立っていた者たちに言った。『その一ミナを彼から取り上げて、十ミナ持っている人にやりなさい。』

19:25 すると彼らは、『ご主人さま。その人は十ミナも持っています。』と言った。

19:26 彼は言った。『あなたがたに言うが、だれでも持っている者は、さらに与えられ、持たない者からは、持っている者までも取り上げられるのです。』

19:27 ただ、私が王になるのを望まなかったこの敵どもは、みなここに連れて来て、私の目の前で殺してしまえ。』

イエス様が王になるまでには相当の期間があり、その間には使命があると、イエス様はたとえて理解させます。大切なことは、この王となるべき人を喜んでいただくかどうかということです。彼の王位を喜んでいたら、与えられたもので王のために生きるでしょう。

私たちがやがて万物の王、全能の支配者として来られる主イエス様のために、その全能を喜んで、主のために仕えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

